

令和 3 年 6 月 21 日現在

機関番号：14501

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K14539

研究課題名（和文）中国農村の新たなリーダー像とフォロワーの仕組みに関する研究

研究課題名（英文）Research on the Image of New Leaders and Follower Mechanisms in Rural China

研究代表者

高田 晋史（Takada, Shinji）

神戸大学・農学研究科・助教

研究者番号：90739781

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,600,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、近年中国の農村で見られる新しい農村リーダーとして、“地方就業プロジェクト”の従事者に着目し、その特性やリーダーとして支える仕組みについて考察した。具体的には、従事者へのアンケート調査や実態調査から、まず、“地方就業プロジェクト”を志望する大学生の特徴を明らかにした。次に、“地方就業プロジェクト”の従事者意識を分析し、任期終了後の定住、地域との関係保持、起業を促進するための要点を提示した。さらに、“地域就業プロジェクト”で農村に赴任した若者が、農村のリーダーになるための支える仕組みについて考察した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

中央政府は近年、若者の農村や貧困地域への派遣を積極的に実施してきた。こうした人材の一部は、地域に根付き、社会経済発展において重要な役割を担っている。本研究では、これまであまり研究されてこなかった“地域就業プロジェクト”の実態を明らかにし、それをさらに発展させていく上での要点を提示した。また、本研究から見ることが出来る中国における新たな農村リーダー像やこうしたリーダーを軸に農村を発展させていく仕組みは、中国農村の今後を展望する上で示唆に富んだものとなった。

研究成果の概要（英文）：In this study, focusing on the "Grassroot employment project" workers as the new rural leaders in China in recent years, characteristics of the workers and the mechanism to support them as leaders were discussed. From the questionnaire survey and field survey, first, the characteristics of college students who want to work in the "Grassroot employment project" were clarified. Next, consciousness of the workers of the "Grassroot employment project" was analyzed. As a result, suggestions were made on how to encourage students to settle down, keep relations with the local community, and start their own business after their term of service is finished. In addition, the mechanism to support young people who are posted to rural areas in "Grassroot employment project" to become rural leaders was discussed.

研究分野：農業経営学，農村計画学

キーワード：中国農村 大学生村官 特崗教師 西部計画志願者 三支一扶 地方就業プロジェクト 農村リーダー

## 1. 研究開始当初の背景

従来、中国農村におけるリーダーは村幹部を指し、村幹部とは一般的に中国共産党の末端組織である村党支部や村の自治組織である村民委員会の幹部を指す。中でも、村党支部書記（村民委員会主任と兼任していることが多い）は、地域の発展に大きな影響力を持っている。村民委員会は地域の集団資産を管理する役割を担っているが、村幹部はこうした資産の活用方法への影響力を持つ。また、多くの村は自力更生で豊かにしていく必要があり、リーダーの個人的資質や地域外や上級政府とのネットワークの有無などにより村の発展が左右される。

2000年以降、中国では都市と農村の協調的発展や“三農”問題（農業・農民・農村問題）の解決に力を入れ、農村部の発展に多くの資金が投じられてきた。また、農業産業化や農村協同事業の推進は、全国各地の農村において起業家を誕生させた。さらに、西部開発志願者、三支一扶、特崗教師、大学生村官、農業技術普及員などの“地方就業プロジェクト”により、農村をはじめ発展が遅れている地域に累計200万人以上の大学生卒業生（以下、大卒者）が派遣されている。農村に派遣された大卒者の一部は、村に残って起業をしたり、村民委員会や村党支部の幹部に就任したりしている。近年では、こうした起業家として成功した人や外部から派遣された大卒者が新たなリーダーとして村の発展に大きな影響を及ぼしている。

以上から、こうしたリーダーの特性や開発に対するビジョンを分析することは、今後の中国における農村開発を展望する上で極めて重要であると考えた。したがって、本研究では中国農村における新しいリーダーの特性やそれを支える仕組みに焦点を当てて分析することにした。

## 2. 研究の目的

本研究では、近年中国が国家政策として力を入れてきた“地方就業プロジェクト”に着目し、(1)“地方就業プロジェクト”を志望する大学生の特徴、(2)“地方就業プロジェクト”の従事者意識、(3)“地方就業プロジェクト”に従事する人材を支える仕組みの3つの視点から、中国農村における新しいリーダー像とそれを支える仕組みについて検討していくこととした。

なお、本研究において“地方就業プロジェクト”に着目した主な理由は次の通りである。1つ目は、“地方就業プロジェクト”は、中国国内において大規模に展開され、農村の発展に大きな影響を及ぼしていると考えられるが、我が国ではほとんど取り上げられてこなかったからである。2つ目は、“地方就業プロジェクト”の従事者やOB・OGは若者であり、コロナ禍においてもオンラインツールを用いてアクセスしやすい対象であったからである。これらのことから、農村の新たなリーダー像を理解する上で“地方就業プロジェクト”を介して農村に派遣された若者を取り上げることが適当であると考えた。

## 3. 研究の方法

### (1) “地方就業プロジェクト”を志望する大学生の特徴

2018年に山東省滨州市の大学に対しアンケート調査を行い、281部の有効回答を得た。アンケート調査票は、大学生村官への参加意向を非説明変数、個人属性、農村での生活経験、仕事の経験、農村適応性、両親の影響、地域の発展状況などの説明変数から設計し、その結果を二項ロジスティック回帰分析にて分析した。また、定量分析の補足として、アンケート回答者のうち62名に対して簡単なヒアリング調査も実施した。

### (2) “地方就業プロジェクト”の従事者意識

このテーマを分析するにあたり、大学生村官、特崗教師、西部計画志願者、三支一扶の従事者に対して調査を行なった。特に、西部計画志願者と三支一扶は、中国でもその実態がほとんど報告されてこなかった。アンケートは、Webアンケート作成ツール“問巻星”を用いて作成し、2020年に関係者を頼って全国に拡散した。まず、比較的对象者にアクセスがしやすかった大学生村官と特崗教師に対してアンケート調査を実施し、大学生村官から70部、特崗教師から89部の有効回答を得た。アンケート調査票は、“地方就業プロジェクト”及び農村での就職に対する意向、定住をはじめ任期終了後の意向を非説明変数、従事者の属性、志望理由、生活及び労働環境などの説明変数から設計した。分析にあたっては、“地方就業プロジェクト”及び農村での就職に対する意向や任期終了後の意向を非説明変数、そして属性・志望理由・生活及び労働環境を説明変数として二項ロジスティック回帰分析を行った。また、大学生村官の定住、留任、そして地域との継続的な関わりを促進するための留意点を明らかにするため、任期終了後の意向と志望理由、生活及び労働環境とで偏相関分析を行った。

その後、西部計画志願者と三支一扶に対しても一部修正を加えたアンケート調査を行い、西部計画志願者から42部、三支一扶から7部の有効回答を得た。アンケート結果はクロス分析を行うことで、“地方就業プロジェクト”及び農村での就職に対して積極的な姿勢を持つ従事者の特徴や定住、起業、任期終了後に地域外に居住しても地域との関係を保持したいと考える（関係保持意向）従事者の特徴について考察した。

### (3) “地方就業プロジェクト”に従事する人材を支える仕組み

まず大学生村官が農村でビジネスを立ち上げる際にどのようなサポートが必要なのかについて考察した。そのために、2019年に山東省で起業した5名の大学生村官経験者に対してヒアリング調査を行った。次に、大学生村官が起業家となり、どのようにして住民の支持を得て村幹部になったのかについて考察した。そのために、2019年に山東省で1名の大学生村官経験者に対してヒアリング調査を行った。

## 4. 研究成果

### (1) 大学生村官を志望する大学生の特徴

まず、調査対象者の属性から大学生村官に興味を持つ学生の特徴を見ると、男子学生の方が女子学生より大学生村官への関心が高く、農学、教育学、医学を専門に学ぶ学生は他の学生より大学生村官への関心が高い。また、年齢が高くなるほど大学生村官への関心が低くなる傾向がある。この結果の背景として、ヒアリングによると女子学生は男子学生より農村で働くことにおける体力的な懸念を持っており、こうした考えも背景にあると考えられる。また、政府は農学、教育学、医学を学ぶ学生に対して農村での就業を奨励しており、こうした学生は大学で学ぶ中で“地方就業プロジェクト”や農村開発についての情報を得ることができることも背景にあると考えられる。さらに、既往研究などから、年齢が高くなると結婚や子育て環境などを考慮するようになり、農村での就業に消極的になるのではないかと考えられる。この他、大学生村官に興味を持つ学生の特徴としては、農村部の好印象を持っていること、文化的差異に寛容であること、両親が同意していることといった特徴が確認された。

以上から、大学生村官への応募者をさらに増加させるためには、農村の魅力についての情報発信や農村での就業経験が若者のキャリアアップにつながるための支援体制の更なる整備、文化の違いによるストレスを最小限にするためにも農村地域についての理解促進や受入体制整備などの重要性が指摘できる。

### (2) “地方就業プロジェクト”の従事者意識

#### ①大学生村官と特崗教師従事者の意識

まず、農村での就職に積極的な姿勢で大学生村官や特崗教師になった人の特徴を見ると、男性、年齢が若い人、都市部での就業経験がない人は、そうでない人より志望時に積極的な姿勢を持っていた。性別や年齢の特徴については前述の研究と同様の結果であるが、都市部での就業経験の有無については、都市部の生活にうまく馴染めなかった人が応募しているという背景もあり、このような結果になったと考えられる。特崗教師を見ると、小学校配属の従事者は中学校配属の従事者より、積極的な姿勢で志望している。これは、特崗教師の対象となる中学校の一部は県中心部など都市部に位置しているのに対し、小学校は主に農村部に位置していることが背景にある。つまり、小学校の特崗教師は農村で働くことを事前から理解した上で志望しているからであると考えられる。

次に、任期終了後の意向についてである。まず、定住意向を見ると、男性、特崗教師、既婚者、都市部での就業経験がない、親が村幹部である人は、そうでない人より定住意向を持っていた。既婚者については、既往研究では子供の教育環境を求めて都市部に流出する傾向にあることが指摘されていたが、本研究ではそれとは異なる結果となった。また、大学生村官の従事者は、将来的な公務員へのキャリアアップの機会として志望する人も多いとされており、こうした背景から特崗教師より定住意向が低いという結果につながったと考えられる。次に、関係保持意向を見ると、専門が農学や教育学ではない、兄弟がいる、親が村幹部である人は、そうでない人より関係保持意向を持っていた。現在、地元出身者を優先的に“地方就業プロジェクト”に採用する方針がとられており、兄弟がいる人は一人っ子より親の世話の負担がなく、地元を離れる傾向があるのではないかと考えられる。親が村幹部であるかどうかは、定住意向とも関係があり、農村で働くことがイメージできていることや親の理解なども関係しているのではないかと考えられるが、これについては専門と関係保持意向との関係も含めて更なる検証が必要である。

さらに、定住意向と関係保持意向を高めるためには、従事者個人へのサポート体制の充実、生活及び労働環境の整備、地域住民との良好な人間関係構築の重要性が指摘できる。

#### ②西部計画志願者と三支一扶従事者の意識

まず、農村での就職に積極的な姿勢を持った従事者の特徴を見ると、都市部での生活に馴染めなかった、農村にポジティブな印象を持っている、農業・農村に関わる仕事に興味を持っているということがあげられる。また、積極的な姿勢で西部計画志願者や三支一扶になった人の特徴として、農村にポジティブな印象を持っている、農業・農村に関わる仕事に興味を持っている、公務員を志望しているということがあげられる。

次に、任期終了後の意向についてである。まず、従事者の属性との関係を見ると、従事期間が長い人ほど定住意向を持つ傾向が見られた。これについては、既往研究でも指摘されていた地域社会への適応度とも関係していると考えられる。また、年齢が高い人ほど関係保持意向、起業意向があり、また都市部での就業経験がある人はそうでない人より起業意向がある。これらの背景については、更なる検証が必要であるが、起業促進のためにはある程度の社会経験が必要であることが指摘できる。また、志望理由との関係を見ると、都市部での生活に馴染めない、農村での生

活にポジティブな印象を持っている、両親から勧められて応募した人は、そうでない人より定住意向を持つ傾向が見られた。ここから、農村に対するポジティブなイメージを醸成することの重要性のほか、定住意向においても両親の態度が重要であることが指摘できる。また、積極的な姿勢で西部計画志願者や三支一扶になった、農業・農村に関わる仕事に興味を持っている人はそうでない人より関係保持意向を持つ傾向が見られた。

さらに、定住意向、関係保持意向、起業意向と生活及び労働環境との関係を見ると、関係保持意向との関係に有意差が見られ、労働環境や研修に満足している人はそうでない人より関係保持意向を持つ傾向が見られた。このことから、関係保持意向の促進には、労働環境やサポート体制の整備の重要性が指摘できる。

### (3) “地方就業プロジェクト”に従事する人材を支える仕組み

#### ①大学生村官の起業に必要なサポート体制

大学生村官が起業をするにあたって、両親や家族の理解やサポートが重要であり、調査からはパートナーの事業からの脱退や両親の反対により事業が継続できなくなった事例も確認された。また、村幹部の理解も重要であり、村幹部と農村発展のビジョンを共有していることが事業を進めていく上で重要である。大学生村官は村民委員会及び村党書記の補佐として村の業務に従事するため、上司にあたる村幹部の理解は極めて重要である。特に、起業の際には村の共有財産である土地や建物を使用することが多く、この点で村幹部の理解は必須である。村政府の財政状況が良い場合は、村政府からの財政支援を受けている事例も見られた。さらに、本研究で研究対象とした大学生村官はアグリビジネスに従事しており、起業当初は農業に関する知識の習得が必要になってくる。その際、多くの事例で地元農家のサポートを受けており、地元住民からのサポートの重要性も指摘できる。

次に、起業した後、多くの事例が電子商取引のプラットフォームを活用しており、インターネット環境や電子商取引のプラットフォームは事業を発展させる上で重要な役割を果たしている。また、事業発展期においては、より高度な技術や知識が必要となり、外部からのサポートが必要である。これに対しては、地元の農業技術センターや大学生村官をサポートするNPO団体が重要な役割を果たしていた。さらに、良質な労働力をいかに確保するかが課題である。特に、貧困地域では高度な農業技術や経営感覚を持つ人材を確保することが困難であり、この点において家族のサポートに頼らざるを得ないというのが現状である。

#### ②起業をした大学生村官が村幹部になるまでの要点

山東省において村幹部になった大学生村官の分析から、自身の事業活動が地域課題を解決するコミュニティビジネスとして発展するかが重要である。その為には、村幹部によるサポートのみならず、いかに住民からの信頼を得るかが重要になってくる。本研究の事例では、村幹部の補佐として多くの開発プロジェクトに従事することが、村幹部や住民からの信頼獲得につながっていた。こうした地域からの信頼に加え、事業が順調に展開することも住民の参画促進につながった。その後、村幹部や住民からの出資を背景に農民專業合作社を設立し、村民委員会幹部に選任される。その後は、合作社と村政府の連携がさらに深まり、村の貧困削減プロジェクトを担うようになる。このように、村幹部になると村の土地や外部からの貧困対策資金などの資源が集中し、村の開発における影響力が大きくなっていく。このように、村幹部になることで事業活動への公的役割が強まり、地域内外の資源が集中していく。この取り組みを通じて、地域の貧困削減に大きく貢献している。

農村リーダーを支える仕組みについては、更なる詳細な実態調査が必要であったが、コロナ禍により十分な現地調査をすることが出来なかった。したがって、農村リーダーを支える仕組みの解明については、実態調査を重ねながら今後も研究を継続していく所存である。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 高田晋史	4. 巻 70(4)
2. 論文標題 中国における若者の地方就業プロジェクトの展開と従事者意識	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 關西大學經濟論集	6. 最初と最後の頁 441-467
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.32286/00022834	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 Shuai Wang, Masaya Nakatsuka, Shinji Takada	4. 巻 -
2. 論文標題 Influencing Factors of College Student's willingness to be a Candidate of Grassroot Employment Project in China: Case Study of the Selected College Student Village Official in Shandong Province	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 農村計画学会誌	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計3件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 Shuai Wang, Masaya Nakatsuka, Shinji Takada
2. 発表標題 Willingness to Work in Rural Area of College Students in China: For Improving the College Student Village Official Program
3. 学会等名 日本農業経済学会2019年度大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Shuai Wang, Masaya Nakatsuka, Shinji Takada
2. 発表標題 The External Supporting Environment for College Student Village Official Entrepreneurship on Agricultural Cultivation in China: Based on Entrepreneurial Ecosystem
3. 学会等名 日本農業経済学会2020年度大会
4. 発表年 2020年

1. 発表者名 Shuai Wang, Masaya Nakatsuka, Shinji Takada
2. 発表標題 Poverty Alleviation through College Student's Entrepreneurship in China: Case Study of Planting Cooperative S
3. 学会等名 第70回地域農林経済学会大会
4. 発表年 2020年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 N.Yasunaga, N.Inoue (eds.)	4. 発行年 2020年
2. 出版社 Springer Nature Singapore	5. 総ページ数 240
3. 書名 Farm and Rural Community Management in Less Favored Areas	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------